

令和4年度
近江八幡市
生涯学習社会づくり推進計画
進捗管理報告書

令和4年6月
近江八幡市教育委員会事務局 生涯学習課

『近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画』進捗管理のイメージ図

○「近江八幡市生涯学習社会づくり構想」および「実施計画」の改訂経過

- | | |
|----------------------------|-----------|
| ①「近江八幡市生涯学習社会づくり構想」 | 平成 4年3月策定 |
| ②「近江八幡市生涯学習社会づくり構想」 | 平成15年3月改訂 |
| ③「近江八幡市生涯学習推進実施計画」 | 平成16年3月策定 |
| ④「近江八幡市生涯学習社会づくり構想」 | 平成21年3月改訂 |
| ⑤「近江八幡市生涯学習推進実施計画」 | 平成22年3月改訂 |
| ⑥「近江八幡市生涯学習社会づくり構想・推進実施計画」 | 平成28年3月改訂 |
| ⑦「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」 | 令和 4年6月改訂 |



『近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画』の進捗管理

1. 進捗管理の目的

平成28年3月『近江八幡市生涯学習社会づくり構想』（以下「構想」）を策定するとともに、「構想の」に掲げる「ふるさとへの愛着と誇りから、学びが活かされつながる楽しみが創る、元気なまち近江八幡 ～郷土愛が紡ぐ近江八幡の生涯学習社会～」という理念を実現するために、各部局の社会教育・生涯学習関連事業（以下、個別事業）を体系化し、生涯学習・社会教育政策を総合的・体系的に推進するため『近江八幡市生涯学習推進実施計画』（以下「実施計画」）を策定した。

この「構想」の理念の実現を図るため、「実施計画」に掲げる個別事業の進捗管理を中心に、生涯学習・社会教育推進のための施策を総合的に展開するとともに、関係各部局間の連携・調整を図り、効率的・体系的に施策展開を推進する。

2. 進捗管理の手法

- (1) 「実施計画」に掲げる実践項目別の関係所属の個別事業の進捗状況を年度ごとに調査する。
- (2) 「実施計画」の個別事業の成果と課題、目標達成状況を把握する。
- (3) 進捗管理を通して生涯学習課と各所属が情報を共有することにより、連携を密にし、各所属において特色を生かした生涯学習・社会教育政策が効率的・体系的に推進されるよう支援する。
- (4) 社会の変化に伴う新しい課題や重要な課題が生じた場合は、必要に応じて「実施計画」に追加する。
- (5) 目標達成・終了した事業については、「実施計画」から削除する。

3. 進捗管理期間

令和4年4月～令和8年3月

※年度ごとに進捗管理を行う。

※「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」は、「近江八幡市教育振興基本計画」の計画終了年度を目標年度としている。

4. 期待成果

- (1) 生涯学習課が各所属の生涯学習・社会教育推進事業の進捗状況を把握することで体系的・効率的に社会教育・生涯学習事業を推進する。
- (2) 各所属の類似事業の一本化による事業の合理化や、関連事業の連携による事業の相乗効果の向上を図る。
- (3) 年度毎に進捗管理を行うことにより、構想の目標達成状況を把握し、次年度以降の生涯学習・社会教育事業の改善を図る。

令和4年度 生涯学習社会づくり推進計画事業リスト(実践項目別)						
実践項目の目標	施策の方向	所属部	番号	所属課	事業名	
(1) 生涯学習情報	①情報提供の充実・共有	教育委員会	1	図書館	読書活動推進事業	
		教育委員会	2	生涯学習課	生涯学習センター機能推進事業	
	②生涯学習の啓発	総合政策部	3	文化振興課	市史普及啓発事業	
		総合政策部	4	文化振興課	歴史文化資産普及啓発事業	
(2) 多様なニーズに届ける学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	総合政策部	5	まちづくり協働課(まちづくり協議会)	文化・歴史講座	
		総合政策部	6	文化振興課	文化団体活動支援事業	
		総合政策部	7	文化振興課	お出かけ演奏会	
		総合政策部	8	文化振興課	キッズオルガン教室・パイプオルガン探検隊	
		市民部	9	環境課	環境保全対策事業	
		教育委員会	10	学校教育課	食農ファーム推進支援事業(田んぼのこ体験事業)	
		教育委員会	11	学校教育課	キャリア教育推進事業	
		教育委員会	12	図書館	近江八幡文学講座	
		教育委員会	13	生涯学習課(中央公民館)	地域課題等学習講座	
		教育委員会	14	生涯学習課(中央公民館)	中央公民館講座	
		教育委員会	15	生涯学習課(中央公民館)	市民大学講座	
		教育委員会	16	生涯学習課	学校支援地域本部事業	
		教育委員会	17	生涯学習課	人生伝承塾	
		教育委員会	18	生涯学習課	学校支援メニューフェア	
		②現代的課題を学ぶ機会の提供	総合政策部	19	まちづくり協働課	国際交流事業
			総合政策部	20	まちづくり協働課	多文化共生事業
			市民部	21	人権・市民生活課	人権尊重のまちづくり市民講座
			市民部	22	人権・市民生活課	人権フェスティバル
	市民部		23	人権・市民生活課	人権尊重のまちづくり懇談会開催支援業務	
	福祉保険部		24	障がい福祉課(市民共生センター)	市民共生センター運営事業	
	産業経済部		25	商工振興課(近江八幡市企業内人権問題推進連絡会)	企業内人権問題研修推進事業	
	教育委員会		26	スポーツ課	スポーツ関係団体人権学習会	
	教育委員会		27	生涯学習課(中央公民館)	住みよいまちづくり推進講座	
	教育委員会		28	生涯学習課	社会教育関係団体人権学習会	
	③学びの要求の充足	総合政策部	29	生涯学習課(中央公民館)	地域課題等学習講座(No.13再掲)	
		教育委員会	30	生涯学習課(中央公民館)	中央公民館講座(No.14再掲)	
		総合政策部	31	文化振興課	安土文芸の郷公園指定管理事業	
		教育委員会	32	スポーツ課	総合型地域スポーツクラブ支援事業	
		教育委員会	33	スポーツ課	スポーツ教室	
		教育委員会	34	図書館	読書活動推進事業(No.1再掲)	
	(3) 生涯学習を通じた地域・まちづくりの推進	①まちづくりのリーダーの育成	市長直轄組織	35	危機管理課	防災出前講座
			市民部	36	人権・市民生活課	人権教育啓発講師団養成事業
			子ども健康部	37	子育て支援課	子育てサポーター養成講座の実施
			教育委員会	38	生涯学習課(中央公民館)	住みよいまちづくり推進講座(No.27再掲)
②学びを生かす活動の支援		総合政策部	39	文化振興課	近江八幡市美術展覧会	
		市民部	40	人権・市民生活課	男女共同参画市民のつどい	
		子ども健康部	41	子育て支援課	親子・子育て応援ひろば事業(カンガルー広場)	
		教育委員会	42	生涯学習課(中央公民館)	地域課題等学習講座(No.13再掲)	
③人の交流によるまちの活性化		総合政策部	43	まちづくり協働課(まちづくり協議会)	各種スポーツ大会	
		総合政策部	44	まちづくり協働課(まちづくり協議会)	学区文化祭	
		教育委員会	45	図書館	リサイクル資料を活用した市民提案事業	
		教育委員会	46	スポーツ課	スポーツ大会	
(4) 誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	総合政策部	47	文化振興課	文化芸術振興基本計画推進業務	
		教育委員会	48	図書館	本のまち!動く図書館事業	
		教育委員会	49	スポーツ課	学校体育施設開放事業	
		教育委員会	50	生涯学習課	生涯学習推進実施計画進捗管理	
	②家庭教育の再生	総合政策部	51	文化振興課	子ども文化芸術賞	
		子ども健康部	52	子育て支援課	地域子育て支援拠点事業	
		教育委員会	53	図書館	おはなしメリーゴーランド	
		教育委員会	54	図書館	ブックスタート事業	
		教育委員会	55	図書館	就学前わくわく絵本体験事業	
		教育委員会	56	生涯学習課	家庭教育支援基盤形成事業	
	③地域・民間・学校教育の協働	関係各部	57	関係課(学校教育課、学校給食センター、幼児課、図書館、生涯学習課)	早寝・早起き・あそび(あそび)、し(食事)、ど(読書)、う(運動)推進事業	
		総合政策部	58	文化振興課	お出かけ演奏会(No.7再掲)	
		教育委員会	59	学校教育課	キャリア教育推進事業(No.11再掲)	
		教育委員会	60	生涯学習課	学校支援地域本部事業(No.16再掲)	
		教育委員会	61	生涯学習課	人生伝承塾(No.17再掲)	
		教育委員会	62	生涯学習課	学校支援メニューフェア(No.18再掲)	

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(1)生涯学習情報の充実	①情報提供の充実・共有	(1)①	1	読書活動推進事業	社会情勢に即した新鮮な情報や魅力ある資料の収集提供を行い、市民の生涯にわたる豊かな学びを支える。	図書館	①市民一人当たりの資料費 ②市民一人当たりの貸出冊数 ③月例コーナーからの貸出冊数	資料費の確保、蔵書の充実を図り、貸出につながる工夫を行う。 【令和4年度の目標値】 指標②③の前年度比100%以上	①市民一人当たりの資料費: 311円(R4年度:295円) ②市民一人当たりの貸出冊数: 7.1冊(R4年度:7.4冊) ③月例コーナーからの貸出冊数 (R4年度:58,079冊)	【事業概要】 ・近江八幡館、安土館の利用状況や特色を考慮した選書を行い、効果的な資料の購入を行う。また、コーナー展示により、新刊ではない資料を魅力的に見せることで貸出冊数の増加を図り、図書館利用の活性化を図る。 ・移動図書館車や市内コミュニティセンター等への配送サービス、沖島配本等を行い全域サービスの充実に努める。 【成果】 ・ステーション増設による移動図書館での貸出は増加したが、LEDIによる近江八幡館の長期休館等の影響もあり、全体の貸出は減少した。 ・市民一人当たりの資料費は311円(R4年度:295円) ・市民一人当たりの貸出冊数は7.1冊(R4年度:7.4冊) ・月例コーナーからの貸出冊数は44,662冊(R4年度:58,079冊) ・移動図書館車の貸出冊数は15,984冊(R4年度:12,169冊) ・配送サービスでの貸出冊数は7,500冊。(R4年度:7,055冊) ・沖島配本での貸出冊数は434冊(R4年度:533冊)	3
(1)生涯学習情報の充実	①情報提供の充実・共有	(1)①	2	生涯学習センター機能推進事業	地域の生涯学習の推進支援に資する情報収集・調整・提供を行う。	生涯学習課	①マナビ通信の年2回発行 ②市ホームページによる生涯学習関連情報の公開更新4回以上	・引き続き広く市民へ情報が伝わるよう各種メディアの活用を工夫する。 ・マナビ通信の掲載範囲を市外の施設も含めて拡大し、市民が興味や関心を持つよう工夫する。 【令和3年度の目標値】 ①マナビ通信の年2回発行 ②市ホームページによる生涯学習関連情報の公開更新をマナビ通信の発行に合わせて2回以上行う。	マナビ通信2回(上半期、下半期)発行。市HPでも公開。各コミュニティセンターや市関連施設に配布。	【事業概要】 ・マナビ通信は、市及び市関連施設の行事・講座・教室等の予定一覧を上半期と下半期に分けて作成して各コミセンや関係施設に配付し設置すると共に、市ホームページにも掲載した。 ・中央公民館事業の情報を広報、チラシ、ホームページ、ZTVなどを活用し、広く周知した。 【成果】 ・市及び市関連施設の行事・講座・教室等の情報を集約することで、生涯学習情報を求める市民へ情報提供することができた。 【課題】 ・完成したマナビ通信は、各施設や各課の配架コーナーに置いてあるが、たくさん残った状態で次号に更新している状況がある。紙媒体での情報をあまり求められていない感触がある。HPを活用して、市民に情報提供を継続して行っていく。	2
(1)生涯学習情報の充実	②生涯学習の啓発	(1)②	3	市史普及啓発事業	本市の歴史が身近に感じられるように努める。	文化振興課	①刊行記念講演会 ②刊行にかかる講座対応	【令和4年度の目標値】 ①「近江八幡の歴史」に関係する媒体への情報発信(5件以上) ②外部との協力による講座等広報事業の3件以上の対応。	①6媒体19件 ②4講座に対応	【事業概要】 ①「広報おうみはちまん」の「ふるさと再発見」への記事掲載を含む6媒体19件の情報発信を行った。 ②ふるさと観光塾を含む4講座の依頼に対応した。 【成果】 それぞれ目標値を上回り、近江八幡市公式Instagramなど新たな媒体で情報発信を行うことができた。 【課題】 市史の頒布促進に伴う啓発を行う必要がある。	1

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(1)生涯学習情報の充実	②生涯学習の啓発	(1)②	4	歴史文化資産普及啓発事業	市内の歴史文化資産に対する興味・関心や文化財を愛護する気運を高める。	文化振興課	①発掘調査成果、文化紹介等の報告会、展示の実施 ②VR安土城のテレビ放映、雑誌掲載への協力	【令和4年度の目標値】 ①2回 ②10件	① 2回 ② 18件	【事業概要】 ① 10月11日から10月16日にかけて小田町文化祭で、地元遺跡調査の紹介パネルと遺物の展示解説を行った。11月11日には岡山区コミュニティセンターで岡山塾1回目「学区内の発掘調査から郷土史を学ぶ」の講演を行った。 ② VR安土城のテレビ放映、雑誌協力は18件行った。 【課題】 ① 他の学区においても展示や講演をしていくことが必要。 ② なし。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	5	文化・歴史講座	地域の文化や歴史の再発見や、地域課題や現代的課題を学び、住民の生涯学習の一層の充実・振興を図る。	まちづくり協働課 (まちづくり協議会)	各まちづくり協議会で独自の評価を設定し実施	・今後も広く住民周知や新たな取組等も検討するなど、常に検証・評価や見直しを行いながら、住民理解・意識醸成が高まるような事業を検討・実施していく。 ・ウイズコロナ・アフターコロナを見据えた持続可能な手法を用いた講座等の開催支援を行う。 【令和4年度の目標値】 講座開講回数	・各学区まちづくり協議会が「ふるさと文化育成事業」として、文化講座、団体活動支援等を実施したが、大きなイベントや、飲食を伴う活動は中止、または規模を縮小しての実施となった。	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会事業で「ふるさと文化育成事業」を実施したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事業の中止や規模縮小が行われた。 【成果】 ・学区や地域が持つ資源(モノ・人材)を発掘・活用し、歴史文化の継承と学区民の意識醸成が図れた。 ・昨年に引き続き、事業実施の件数や参加人数はコロナ前よりも減少しているが、閉塞感のあるなかで、市民に生涯学習の機会を提供できた。 【課題】 ・地域の歴史的史跡を巡る事業等、各学区や地域で個性的な事業の実施が見られるものの、ウイズコロナの状況下で、如何に事業を実施するか、検証や見直し工夫も必要。 ・事業の実施に向けて各団体への支援を行う必要がある。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	6	文化団体活動支援事業	市内の文化芸術団体の事業に対し補助金を交付し支援することで、地域での文化芸術活動の活性化を図る。	文化振興課	①発掘調査成果、文化紹介等の報告会、展示の実施 ②VR安土城のテレビ放映、雑誌掲載への協力	【令和4年度の目標値】 ①2回 ②10件	① 2回 ② 18件	【事業概要】 ① 10月11日から10月16日にかけて小田町文化祭で、地元遺跡調査の紹介パネルと遺物の展示解説を行った。11月11日には岡山区コミュニティセンターで岡山塾1回目「学区内の発掘調査から郷土史を学ぶ」の講演を行った。 ② VR安土城のテレビ放映、雑誌協力は18件行った。 【課題】 ① 他の学区においても展示や講演をしていくことが必要。 ② なし。	1

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	7	お出かけ演奏会	市内各校・園所にプロの音楽家が出向き、安土桃山時代に伝わった音楽などを同時代の楽器と声楽で演奏することにより、子どもに豊かな芸術体験と、地域の歴史文化を学ぶ機会を提供する。	文化振興課	公演実施回数	【令和4年度の目標値】 ①10公演 ②アンケート回答結果「ふつう」以上＝勉強になった、やや勉強となったの回答率6割	①13校園所で17公演実施 ②やや勉強となった以上95%	【事業概要】 西洋音楽史を通じたふるさと学習。16世紀に安土桃山時代に安土に渡来した楽器や音楽の歴史について、プロの演奏者による古楽器(声楽・フルート・オルガンのトリオ編成)演奏を通して、児童がふるさと学習できた幼少期より本物の音楽に触れたりする機会を創出。地域や音楽への興味喚起がねらい。 【成果】 市内小学校及び保育所や幼稚園、こども園からの希望日時に合わせて、13校園所17公演を実施。今年度、はじめて公立園所すべてで、公演実施することができた。また、今年度の小学校対象公演では、文化財担当者も随行し歴史学習の充実を図った効果で、「勉強になった」の回答率において過去最高の結果を得ることができた。た。市文化振興条例に基づく文化振興基本計画(基本目標Ⅳ-基本施策1-具体的取り組み④文化芸術に接する機会の拡充)を遂行できた。 【課題】 未就学児に対し、本物の音楽に触れる機会が増える一方で、学校行事等もあり、主対象と考える小学校(6年生)からの公演依頼が少ない。	1
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	8	キッズオルガン教室・パイプオルガン探検隊	幼少期からの芸術体験の楽しみを通して文化的土壌を育成するため、県下最大のパイプオルガンを活用し、子どもの演奏技術等の向上を目指す事業と、気軽に家族で参加できる鑑賞型事業を実施する。	文化振興課	①実施回数 ②参加者(体験者)数	【令和4年度の目標値】 ①キッズオルガン教室5回/パイプオルガン探検隊1回以上 ②計150名	①5回/1回 ②計160名	【事業概要】 当市の特色を打ち出した文化事業として、県下最大のパイプオルガンを活用した各種ワークショップを実施。 子どもの演奏技術向上等を目指す教室事業と、気軽にご家族で参加いただける鑑賞型事業の2プログラムを実施。キッズオルガン教室は、今年度から新たに個人レッスン時間を設け、参加者の満足度を上げた。パイプオルガン探検隊は、施設改修工事があり1回の実施。 【成果】 計画的、継続的なワークショップを実施することにより、子どもたちの豊かな創造性を育むことができた。個人レッスン市文化振興条例に基づく文化振興基本計画(基本目標Ⅳ-基本施策1-具体的取り組み③体験や参加、参画企画の充実)を遂行できた。 【課題】 楽器の設置台数が希少なため、参加者が楽器を体験出来る時間に制約が生じる。一人一人の満足度を上げるための工夫が必要。	2
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	9	環境保全対策事業	自然環境、歴史的、文化的環境、生活環境などの良好な環境の保全及び創造を図るため、環境基本計画に基づく取組を推進する。	環境課	①市内における水鳥観察会の開催 ②幼稚園・保育所・こども園にて緑のカーテンを設置 ③環境保全の意識高揚を図るために広報にて啓発	【令和4年度の目標値】 ①市民団体等による水鳥観察会の開催を支援し、ラムサール条約に関する啓発を行う。 ②全公立幼稚園・保育所・こども園で実施 ③定期的な広報活動	①実施 ②実施 ③環境保全に関する内容の広報掲載	【事業概要】 ①市民団体による水鳥観察会の開催支援を行い、ラムサール条約に関する啓発を行う。 ②環境保全活動団体「ポレポレ25」協力のもと、地球温暖化についての学習と節電効果の体験としてゴーヤで緑のカーテンを設置する。 ③意識高揚のため、地球温暖化や節電・リサイクルに関する内容を広報に掲載する。 【成果】 ①市民団体主催で水鳥観察会を実施し、ラムサール条約に関する啓発を行った。 ②新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しつつ、希望される市内公立幼稚園・保育所・こども園で事業を行った。 ③定期的な広報に加え、年3回おうみはちまんエコ通信を掲載。 【課題】 ・短期的な活動で環境保全の意識向上を行うことは難しく、一過性のものにならないよう継続して取り組んでもらえるような工夫をする必要がある。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	10	食農ファーム推進支援事業(田んぼのご体験事業)	児童が育て、収穫し、食べるという貫した農業体験学習を実施し、農業への関心を高めるとともに生命や食べ物大切さを学ぶ。地域の農家の皆さんの協力を得て、人の心を癒すモノづくりを農業教育ファームとして展開することで、子どもたちの健やかな心を育て、田畑を教室にして、知恵や心を育む地域づくり学校を目指す。	学校教育課	市内の全小学校で実施	・地域の農家やボランティアの皆さんと連携を深め、児童にとって豊かな体験となるように工夫・改善を進める。 【令和4年度の目標値】 ・引き続き市内の全小学校で実施する。また、各小学校の取組を交流する機会を設ける。	・市内の全小学校で実施 ・各校で事業計画をたて、地域の農家の方々等の協力を得て体験学習を実施することができた。 ・各小学校の取組を交流する機会を持つことができなかった。 ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、児童による調理実習を見合わせるなど、例年とは異なった形で取り組んだ学校もあった。	【事業概要】 児童が自ら田んぼや畑に入り様々な農作業を行い、ここで収穫した作物を調理して食べることを基本としている。栽培作物は、水稻を中心に野菜等地域に応じた食用作物を選択して栽培する。作物を栽培するときは、化学合成農業や化学肥料をなるべく使わないなど、環境にこだわり農業に準じた栽培を行うよう心がけている。また、地域の農家と連携しふるさと教育の一環としての意味合いも大きい。 【成果】 学校と地域が一体となって子どもたちに関わり、「育て」「収穫し」「食べる」という活動を通して食べ物を大切に思う心や、人との出会いや関わりを通して感謝の心を育むことができた。 【課題】 学校の敷地外に田があるため、稲の日常的な観察や世話をすることは難しい。野菜等は各自の植木鉢や学校農園で栽培・収穫しているが、仕事の大変さを感じるには至らない。心情面を耕す、道徳的な学習の充実を考える必要がある。	2
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	11	キャリア教育推進事業	市内の子どもたちが、社会人、職業人として自立し、地域につながるキャリア教育・職業教育の充実と推進を図る。	学校教育課	中学生チャレンジウィークにおける体験活動の日数	・市内の中学校が教育委員会と情報共有しながら職場体験の受け入れ先を開拓し、各校3日以上体験活動ができるように進める。 【令和4年度の目標値】 職場体験 3日間	・市内3中学校は3日間実施できた。1中学校は、コロナ禍のため2日間の実施となった。 ・職場体験学習を楽しみにしている子どもが多く、前向きに取り組んでいた。 ・保護者や事業所は職場体験を良い学習の場であると感じていた。	【事業概要】 子どもたちが実際に地域の事業所に向かい働くことを通して、働く人の思いに触れ、自分の生き方を考える機会とする。地域との連携を深め、地域で子どもを育てる気運を高める。 【成果】 あいさつや振る舞いなど基本的な事を身につけ、働くことの厳しさや喜び、労働に対する正しい認識を持つことができた。また、マナーやルール上の必要性を身をもって理解することができた。日常にはない貴重な体験を通じ、仕事に対する興味や関心も広がり、より一層、将来の自分像を描きやすくなった。今後の進路学習や人生設計にも生きる活動となった。 【課題】 子どもたちの変化を生かした、事前・事後学習の充実、家庭・地域・学校との連携がより必要である。コロナ禍での実施により、事業所の確保が困難であった。さらなる体験事業所の確保が必要である。	2
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	12	講座・企画展示	地域に根ざした歴史や文学、自然等に関する講演会や親子ワークショップ等を行い、地域文化を次世代へ継承する。	図書館	①講座等の実施回数	多くの市民に参加してもらえるよう呼びかけ、地域の文化を次世代へとつなげる機会とする。 【令和4年度の目標値】 実施回数(年3回以上)	①講座等の実施回数:5回 【内訳】 ・ぬいぐるみのおとまり会:1回 ・森のえほん会:1回 ・西の湖を感じる展覧会:1回 ・絵本の世界にはいつちやお:1回 ・声優朗読劇:1回	【事業概要】 ・近江八幡の歴史や文化、自然等に親しみ、本への関心を深めてもらうきっかけづくりとして、講演会やワークショップなどを行う。 【成果】 ・市民団体との共催等により、移動図書館車を活用したぬいぐるみのおとまり会やマルシェ、声優朗読劇等を開催した。 【課題】 ・より多くの市民に参加してもらえる魅力的な講座やワークショップを企画実施する。	1

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	13	地域課題等学習講座	地域の市民一人ひとりが、精神障がいや発達障がい、高齢者問題、防災、新しい人権、家庭教育等の現代的課題を幅広く学び、学びを実践としてまちづくりに生かして地域課題の解決を図る。障がい福祉課、人権・市民生活課、子育て支援課、福祉政策課等各課題と関連のある各所属と連携し、効果的な事業の推進を図る。	生涯学習課 (中央公民館)	講座実施回数	・今後も各学区まちづくり協議会への事業周知を継続する。 ・地域課題に対応できる講師の情報を集める。 【令和4年度の目標値】 ・全11学区11講座の実施をめざしたところではあるが、コロナ禍のため今年度は4学区6講座の実施をめざす。	実施回数2学区3講座実施	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会がそれぞれの地域にある課題について学習する講座を主体的に企画して実施する。 ・生涯学習課は、講師の紹介や予算執行を行う。 【成果】 ・地域のニーズに合わせた講座内容を扱うことができた。 ・様々な分野の講座をひらくことができ、市民の学びの機会を保障することができた。 【課題】 ・すべての学区で活用いただけるように各まちづくり協議会や他の所属との連携を図る必要がある。	2
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	14	中央公民館講座	社会の要求に即した公民館講座や、生涯学習のまちづくりを推進するためのリーダー養成講座、子ども体験教室など、さまざまな講座を開催し、学習機会の提供を行う。	生涯学習課 (中央公民館)	①講座実施回数 ②参加者数	【令和4年度の目標値】 ・各コミセンを会場として年11回の開催をしたところではあるが、年4回の開催をめざす。	①年2回実施 ②第1回35名、第2回20名	【事業概要】 第1回は山登りを行った。山登りを通して、自然とふるさとについて学ぶ。第2回は水鳥観察会を行った。宮ヶ浜に集まる野鳥を観察し、水鳥の特徴や自然保護の大切さを学ぶ。 【成果】 ・市内小学校に広報を行い、親子で学ぶ機会とした。家族だけでは体験できない内容であったため、満足度も高かった。 【課題】 夏休みに開催できなかったため、広く市民に参加してもらえらる講座を検討し、実施回数を増やす必要がある。	1
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	15	市民大学講座	市民に継続的な生涯学習の場を提供するとともに市民相互の交流の場とする。	生涯学習課 (中央公民館)	①講座実施回数 ②参加者数	【令和4年度の目標値】 ・オンライン動画公開数5回 ・再生回数1000回 ・ホール型講座開催数3回 ・参加者数100人	オンライン動画公開4回 合計再生回数1053回 ホール型講座 ・5回開催 ・参加総人数88名	【事業概要】 市民大学講座を歴史・健康・文化・読書などの多岐にわたるテーマ設定で開講し、それぞれにふるさと学習に関わる内容も加味した形で実施した。 【成果】 ・多岐にわたるテーマ設定で開講し、それぞれにふるさと学習に関わる内容も加味した形で5回開催 【課題】 広報が十分に行き届いていなかったため、広報誌やチラシ、LINEなど市民に向けたお知らせを工夫する。	1

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の実況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	16	学校支援地域本部事業	地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制を確立する。また、地域全体で子どもを育てるための地域住民の意識向上と地域教育力を高める。	生涯学習課	支援ボランティア参加者数	・市内全ての公立こども園、幼稚園、小中学校に地域学校協働本部を設置し、地域学校協働活動推進員を配置することができるので、今後はコミュニティスクールとの連携を図る。 【令和4年度の目標値】 ・支援ボランティア参加者数1,920名	支援ボランティア数のべ約5,000名	【事業概要】 ・5幼稚園、2子ども園、12小学校、4中学校(合計23校)へと市内全ての公立校園で事業実施している。 ・地域学校協働活動推進員の活動の充実や不安の解消を図るため意見交流会や情報交換会を行い、よりよい事業の進め方を追求している。 【成果】 ・地域学校協働活動推進員の配置により教職員と地域住民とのつながりが生まれ、学校と家庭、地域との連携の意識が高まっている。 ・本事業を長年継続していることで、地域での認知度が高まりボランティアに参加する人が増えている。 【課題】 ・事業の開始から長い時間が経過しているため、地域協働活動推進員や学校ボランティアの高齢化が進んでいる。次の世代の人材の発掘をしながら、引継ぎを着実に進め、事業が後退しないようにしなければならない。	2
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	17	人生伝承塾	モノ作りの伝統や日本がこれまで培ってきた技術や精神などを持つ地域人材や企業、団体等が出前授業や見学受入等を通じて生き方・知恵や技能を児童・生徒に伝える。	生涯学習課	人生伝承塾の講師登録者数	・様々な講師の方を迎えての学習によって子ども達が学ぶことの楽しさを実感できるような授業づくりの支援を図る。 【令和4年度の目標値】 ・「人生伝承塾」新規登録者数: 2名	「人生伝承塾」新規登録者数: 4名	【事業概要】・伝統文化やキャリア教育等の11の視点で講師リストを作成し、子ども達が興味関心をもてる学びの機会を設ける。 【成果】・登録いただいた講師の方々が学校や地域に向かい、各講座にて子どもの学びの場を設けることができた。 【課題】・人生伝承塾ファイルが各学校機関に配布されているが、活用頻度、認知度が低い。Googleドライブ内LANで閲覧可能にすることで、より閲覧しやすく活用しやすい環境づくりに取り組む。コミセンには年度毎に一覧表を掲げる。	2
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	18	学校支援メニューフェア	地域の人材・団体や企業の持つ出前授業や見学受入等の学校支援プログラムを学校に直接・間接的につなぐことで、技術や技能、精神を次世代に伝承するとともに社会全体で学校を支援する気運を醸成する。	生涯学習課	学校支援メニューフェア参加者数	・令和4年度以降の開催に向けて、開催形態や内容の見直しを行い、魅力ある催しとなるよう企画する。 【令和3年度の目標値】 コロナ禍により、開催中止	コロナ禍により、開催中止	【事業概要】 ・学校と企業・団体との支援を結びつける学校支援メニューフェアを夏休み期間を利用して開催する。 【成果】 ・コロナ禍により、開催中止 ・企画の具体的な見直しを行うことができなかった。 【課題】 ・支援プログラムを持つ企業・団体の、教職員へのより効果的な紹介方法がないか、検討の必要がある。	3
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ機会の提供	(2)②	19	国際交流事業	海外姉妹都市・兄弟都市との親善交流促進とこれらの国際交流事業を財団法人近江八幡市国際協会との協働により実施・充実を図る。	まちづくり協働課	国際交流を深めるための講座等の開催 ・多文化共生に関する講座 ・姉妹都市等からの使節団の受入対応、親善使節団の派遣の支援・補助するとともに、市内在住の外国籍住民との交流を深める交流会の開催	・(公財)市国際協会への事業委託と事業協力により、新たな事業の企画等での活性化を図り、ウイズコロナ・アフターコロナを見据えた持続可能な手法を用いた講座等の開催により多くの市民が効果的な異文化交流を深め、意識を高めていく。 【令和4年度の目標値】 講座実施回数	①友好姉妹都市交流事業 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、滋賀県ミシガン州友好親善使節団の派遣は中止。 ②市民のためのコミュニケーションスキルアップ講座 多文化まるごと講座フランス編(6月全5回)を開催。 姉妹都市マントヴァの食文化にふれるイタリア料理教室(6月)を開催。 多文化まるごと講座ミャンマー料理教室(10月)を開催。 多文化まるごと講座インド編(3月)を開催。	【事業概要】 ・市国際交流事業として、(公財)近江八幡市国際協会に事業委託を行い、市民が国際交流を深めるための講座等の事業を協働により実施を図った。 【成果】 ・友好姉妹都市交流事業等を実施し市民の国際理解の促進を図る計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模の大きい活動が出来なかったものの、市民対象の外国語講座を開催することが出来た。 【課題】 ・海外姉妹都市との親善交流が再開される中、ウイズコロナの状況下において、単に参加者の人数を増やすことだけを重視せずいかに効果的で心のかような事業を実施できるよう今後も継続的に取り組む必要がある。	3

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ機会の提供	(2)②	20	多文化共生事業	外国人住民とともに暮らしやすく豊かな地域社会を形成する多文化共生のまちづくりを推進する。	まちづくり協働課	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生に関する講座 ・市行政窓口外国語通訳 ・翻訳業務 ・滋賀県等多文化共生事業の支援・協力 ・外国語教室の開催 ・やさしい日本語の普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民が多文化共生社会への理解を深めるため、ウイズコロナ・アフターコロナを見据えた持続可能な手法を用いた事業を実施する。 ・(公財)市国際協会への事業委託と実施協力により、日本人住民による多文化理解だけでなく、外国人住民が自らの役割を認識し、積極的に地域社会に参画していこうとする意識を醸成していく。 ・市行政での多文化共生の観点をもちた意識改革、各種事業実施、窓口対応を働き掛けていく。 【令和4年度の目標値】 講座実施回数 参加者数 広報発行	<ul style="list-style-type: none"> ①市広報概略版(ポルトガル語、英語、やさしい日本語)の発行 ②市行政窓口外国語通訳・翻訳対応 自動翻訳機(ポケトーク)を使用した市職員による窓口対応の実施 ③あづち信長まつり武者行列への参加(11/14)【日本語クラス参加者20人】 ④市窓口対応職員のための「やさしい日本語研修会」(9/27)の開催【参加者10人】 ⑤市職員・国際協会対象の「身近な法律問題基礎知識講座」の開催【参加者12名】 	【事業概要】 ・市多文化共生推進事業として、(公財)近江八幡市国際協会に事業委託を行い、市窓口における外国語通訳(ポルトガル語・英語)や、市民が多文化共生社会への理解を深めるための講座等の事業を実施する。 【成果】 ・市広報概略版(ポルトガル語、英語、やさしい日本語)の発行を実施し、市民の多文化共生社会への理解を深めることができた。また、市役所窓口業務の外国語通訳(ポルトガル語・英語)を行い、窓口手続き及び行政文書(市広報紙等)の対象言語の翻訳に対応できた。また、自動翻訳機(ポケトーク)6台を使用した市職員による窓口対応を実施した。コロナ禍により急激に増加した通訳業務に、引き続き対応した。 【課題】 ・外国人住民と日本人住民が理解を深める多文化理解のための事業に取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため少人数での事業を中心に実施した。今後は、ウイズコロナの状況下において、多文化共生社会の理解を深めるための効果的な事業実施に取り組む必要がある。	2
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ機会の提供	(2)②	21	人権尊重のまちづくり市民講座	人権文化の根付いた差別のない明るく住みよいまちづくりを目指し、あらゆる人権問題をテーマに広く市民に呼びかける学習の機会とする。豊かな人権感覚を育てることを目的とする。	人権・市民生活課	①参加者アンケートの満足度	オンライン活用等、多様な開催方法等を検討する。 【令和4年度の目標値】 ①アンケートの結果、9割以上が満足を得られるよう企画する。	<ul style="list-style-type: none"> ①アンケート結果では「よかった」「まあよかった」が回答の9割を占めた。 	【概要】 特定非営利活動法人カラフルブランケットの理事長である井上ひとみさんを講師として招き、「パートナーシップ宣誓制度について～制度を利用したカップル～」と題して講演会を開催した。 【成果】 定員100名に対して、当日参加者数は38名であった。来年度導入予定のパートナーシップ宣誓制度に関する要綱のパブリックコメント募集期間とも重なり、朝日新聞や京都新聞などで本講座に関する記事が掲載されるなど、やや注目が集まった。アンケートは肯定的な意見が多かった。 【課題】 新型コロナウイルス感染症対策のため、定員を減らしての開催となったが、参加者が少なかった。対面とオンラインの同時開催など、開催方法について検討する必要がある。	2
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	22	人権フェスティバル	人権文化の根付いた差別のない明るく住みよいまちづくりを目指し、あらゆる人権問題をテーマに市民が主体的に参画し、人権問題を自らの課題と捉え、相互の交流を通して豊かな人権感覚を育てる。	人権・市民生活課	①参加者アンケートの満足度	オンライン活用等、多様な開催方法等を検討する。 【令和4年度の目標値】 ①参加者アンケートの結果、9割以上が満足を得られるよう企画する。	<ul style="list-style-type: none"> ①講演のアンケート結果では「よかった」「まあよかった」が回答の10割を占めた。 	【概要】 「音楽とスポーツと人権」をテーマに、元パラリンピック水泳日本代表でヴァイオリニストである伊藤真波さんを講師として招き「あきらめない心～私にできること、周りにできること～」と題して講演会を開催した。 【成果】 参加定員500名に対して、当日参加者数は95名であった。講演のアンケートは高評価で、肯定的な意見が多かった。 【課題】 新型コロナウイルス感染症対策のため、定員を減らしての開催となったが、参加者が少なかった。対面とオンラインの同時開催など、開催方法について検討する必要がある。	1

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	23	人権尊重のまちづくり懇談会開催支援業務	明るく住みよいまちづくりを目指し、地域に根ざした人権啓発活動を推進する。	人権・市民生活課	①懇談会等実施自治会数	・幅広い年代が取り組むことができるような啓発資料の作成や実施方法を検討する。 【令和4年度の目標値】 ①懇談会等実施自治会全169自治会	①120自治会	【概要】 各自治会で人権啓発のDVDや啓発資料、パネル等を活用して、人権尊重のまちづくり懇談会を実施した。 【成果】 全169自治会中、120の自治会が人権啓発事業を実施し、うち対面形式で事業を実施したのは44自治会だった。 【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響で対面形式での開催が減少しており、資料配布などの非対面形式での啓発が増えるなど、開催形式に偏りが見られる。	2
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	24	市民共生センター運営業務	高齢者や障がい児者を対象とした講座・教室を開講し、社会的自立を支援する。	障がい福祉課 (市民共生センター)	教室開講回数	対応方針:新型コロナウイルス感染症による規制緩和に伴い、昨年度より多く自主事業を実施する。広報や市ホームページに留まらず、市の公式LINEを活用して、積極的に発信していく。 目標値: 【パソコン教室】16回 【パソコンフォロー教室】32回 【折り紙教室】13回 【点字体験教室】15回 【切り絵教室】12回 【寄せ植え教室】1回 【自衛術教室】3回 【ポッチャ教室】4回	令和4年度における各種教室の開講回数は、下記の通りとなった。 【パソコン教室】15回 【パソコンフォロー教室】26回 【折り紙教室】3回 【点字体験教室】5回 【切り絵教室】2回 【寄せ植え教室】1回 【自衛術教室】3回 【ポッチャ教室】4回	【概要】 ・パソコン教室およびパソコンフォロー教室においては、目標を下回る開講回数となった。これは、開講に必要な人数が集まらず、中止となった時期があったためである。パソコンフォロー教室に参加する為には、事前にパソコン教室に参加する必要があるため、今後も定期的に開講する必要がある。ただし、目標とする開講回数においては、現状における利用者のニーズを考慮した上で、調整する可能性もありうる。 ・上記以外の教室においては、目標通りの開講回数となった。引き続き、広報、ホームページ、公式LINEを活用して、各種教室の発信に努めたい。 【課題】 開講に必要な人数が集まらない時がある。	3
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	25	企業内人権問題研修推進事業	企業・事業所における公正な採用選考が図られ、併せて差別のない明るい職場づくりへの啓発を行う。	商工振興課 (近江八幡市企業内人権問題推進連絡会)	①人権問題研修会の開催 ②講師派遣回数、教材貸出し回数 ③企業訪問実施企業事業所数 ④近江八幡市企業内人権問題推進連絡会加入企業事業所数	・引き続き、市内事業所に対して情報提供を行うとともに企業内人権の推進を行っている。 【令和4年度の目標値】 ①年3回開催 各回参加者数20～30名(オンライン含む) ②講師派遣のべ4回 教材貸出しのべ10回 ③「企業内人権問題推進状況調べ」の回答状況により、企業訪問を実施するため、目標値の設定は行わない。 ④加入の勧奨については今後も行っていくが、加入に関しては企業の意向、状況も関係するため、目標値の設定は行わない。	①市主催での人権問題研修会の開催(2/7開催8名、2/15開催7名)市内外各所で開催される人権に関する研修会などの案内・情報提供を実施 ②企業内での自主研修実施に対する支援(講師派遣や教材・ビデオ等の提供)などに関してHPで掲載。実績は講師派遣は無し、教材貸出しのべ5回 ③企業訪問実施について、訪問は無し。 ④令和5年3月末時点での連絡会加入事業所数は71事業所	【事業概要】 ・市内の企業・事業所に対し、差別のない公平・公正な選考システムの確立と企業内人権問題の啓発推進を図る。市主催の企業内人権問題研修会の開催や企業内人権問題研修会推進員(市職員や商工会議所職員等)による啓発推進訪問の実施、企業内での自主研修実施に対する支援(講師派遣や教材・ビデオ等の提供)などを行う。 【成果】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度は研修会がオンラインのみの開催であったが、令和4年度はオンラインに加え対面でも開催できた。 【課題】 ・研修内容を検討するにあたり、企業の人権問題事業に対する取組み実態を把握し、ニーズに合う内容にすることが求められる。また幅広い研修内容を検討するため、他課との連携が不可欠である。 ・研修会への参加企業が固定化されているため、より多くの事業所から参加いただけるよう、周知の徹底および人権問題に対する意識の醸成が必要である。 ・企業訪問について、訪問の対象となる企業が約180社あり、当該職員のみで訪問することが困難であるため、訪問の手法を確立し当該以外の職員への協力依頼を検討する必要がある。	3
(2) 多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	26	スポーツ関係団体人権学習会	あらゆる人権問題への正しい理解と自覚を培い、その成果を地域におけるスポーツ指導での実践に結びつけて活動していくことができる指導者の育成を図る。	スポーツ課	参加者数	・人権について毎年、テーマを1つ選んで実施しているが、今後も多岐にわたるテーマを選び、受講者になんらかの「気付き」を与えることができる学習会を開催していく。 【令和4年度の目標値】 ・近年の平均参加者数(参加者80人)	人権に関する学習会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を見送った。代替として、各団体の指導者へ人権問題に関する資料を提供した。	【事業概要】 ・市スポーツ協会加盟の競技団体や、スポーツ少年団、学区スポーツ振興団体等の指導者やスポーツ推進委員を対象に人権問題についての学習会を開催する。 【成果】 ・なし 【課題】 ・参加者が学習会で学んだ内容をそれぞれの活動の中でどう活かしているかが見えてこない。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の実況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	27	住みよいまちづくり推進講座	男女共同参画や子どもの人権、精神障がい、発達障がい、高齢者問題等のあらゆる人権問題への正しい理解と自覚を培い、地域における人権学習会や職場等での実践に結びつけて活動していくことができる指導者の育成を図る。	生涯学習課 (各学区まちづくり協議会に委託)	講座実施回数	・コロナ禍での開催となることから、感染拡大防止対策を徹底し、全ての学区での開催を依頼する。 ・アンケートの集計結果を活用する。 【令和4年度の目標値】 ・各学区年3回以上の実施継続を依頼する。	実施回数10学区27回 (参加者数のべ999名)	【事業概要】 ・男女共同参画をはじめさまざまな人権問題について6月～7月にかけて3回以上の講座の実施を依頼。開催に係る経費は地域まちづくり支援交付金から支出 【成果】 ・コロナ感染が心配される地域では中止対応された会場もあったが、今年度もコロナの感染防止対策を講じ、全ての学区での開催できた。昨年以上の参加者を集める学区もあり、充実した講座を実施された。学びの機会があることを大変喜ばれていた。 【課題】 ・実施期間の限定せず年間を通じてなど、検討が必要。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	28	社会教育関係団体人権学習会	社会教育関係団体の関係者が、あらゆる人権問題への正しい理解を学び、学んだことを各団体の活動に生かしていく機会とする。	生涯学習課	学習会実施回数	【令和4年度の目標値】 ・実施回数1回以上	実施回数1回 参加者数約60人	【事業概要】【成果】 近江八幡市PTA連合会と共同で社会教育関係団体を対象とした人権教育研修会を1回実施し、各団体の会員延べ60人が参加しました。人権学習会内容を含む事業(住みよいまちづくり推進講座)を研修会として指定し、参加を奨励しました。 【課題】 コロナ禍の中で、各団体において、感染拡大防止対策を講じ、事業活動を実施されましたが、実施回数が例年よりも減少した。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	29	地域課題等学習講座(No.13再掲)	地域の市民一人ひとりが、精神障がいや発達障がい、高齢者問題、防災、新しい人権、家庭教育等の現代的課題を幅広く学び、学びを実践としてまちづくりに生かして地域課題の解決を図る。障がい福祉課、人権・市民生活課、子育て支援課、福祉政策課等各課題と関連のある各所属と連携し、効果的な事業の推進を図る。	生涯学習課 (中央公民館)	講座実施回数	・今後も各学区まちづくり協議会への事業周知を継続する。 ・地域課題に対応できる講師の情報を集める。 【令和4年度の目標値】 ・全11学区11講座の実施をめざしたところではあるが、コロナ禍のため今年度は4学区6講座の実施をめざす。	実施回数2学区3講座実施	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会がそれぞれの地域にある課題について学習する講座を主体的に企画して実施する。 ・生涯学習課は、講師の紹介や予算執行を行う。 【成果】 ・地域のニーズに合わせた講座内容を扱うことができた。 ・様々な分野の講座をひらくことができ、市民の学びの機会を保障することができた。 【課題】 ・すべての学区で活用いただけるように各まちづくり協議会や他の所属との連携を図る必要がある。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	30	中央公民館講座(No.14再掲)	社会の要求に即した公民館講座や、生涯学習のまちづくりを推進するためのリーダー育成講座、子ども体験教室など、さまざまな講座を開催し、学習機会の提供を行う。	生涯学習課 (中央公民館)	①講座実施回数 ②参加者数	【令和4年度の目標値】 ・各コミセンを会場として年11回の開催をしたいところではあるが、年4回の開催をめざす。	①年2回実施 ②第1回35名、第2回20名	【事業概要】 第1回は山登りを行った。山登りを通して、自然とふるさとについて学ぶ。 第2回は水鳥観察会を行った。宮ヶ浜に集まる野鳥を観察し、水鳥の特徴や自然保護の大切さを学ぶ。 【成果】 ・市内小学校に広報を行い、親子で学ぶ機会とした。家族だけでは体験できない内容であったため、満足度も高かった。 【課題】 夏休みに開催できなかったため、広く市民に参加してもらえない講座を検討し、実施回数を増やす必要がある。	1

施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の実況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
③学びの要求の充足	(2)③	31	安土文芸の郷公園指定管理事業	市民の文化・芸術及び体育の振興・健康増進を図り、創造的的文化活動と生涯学習を推進するため、各種自主事業及び貸館事業を行う。	文化振興課	実施回数	【令和4年度の目標値】 ①ワンコインコンサート 4回 ②はつらつコンサート 4回 ③能楽教室 71日 ④リトミック教室 6回 ⑤タイムスリップツアー 4回 ⑥子ども歴史塾 4回	令和4年度は、施設の改修工事により長期間休館であったが、以下の事業により、文化芸術の振興を図った。(信長の館が8月から、文芸セミナーヨとマリエートが11月から休館) ①ワンコインコンサート 4回 ②はつらつコンサート 4回 ③能楽教室 71日 ④リトミック教室 6回 ⑤タイムスリップツアー 4回 ⑥子ども歴史塾 4回	【事業概要】 ①乳幼児も入れる親子で楽しめるコンサート。聴きなじみのある身近な楽曲を中心に楽しい話を交えながら約1時間のコンサートを行った。 ②高齢者や在宅の方、障がい者の方にも気軽に参加していただけるコンサート。また、健康増進事業の一環として、近江八幡市が推奨している「いきいき百歳体操」を開演前に放映し紹介を行った。 ③観世流シテ方の講師を招き、原則月2回、年間72日の稽古および成果発表会を実施した。 ④0歳児から1歳児コース(45分間)と2歳児から3歳児コース(45分間)の2コースで、親子約30組の募集を行い、リトミック研究センターからの派遣講師による教室を開講した。 ⑤VR安土城シアターを使用し、操作体験をしていただいたり、スタッフの説明に合わせて、城下から安土城へとCG映像の中を散策していただく体験を行った。 ⑥小学生から中学生を対象として、「信長忍者隊」として“安土城のひみつを探る”をテーマに、VR映像からのクイズやマニュアル操作体験、館内展示物の案内などを行った。 【課題】 ①乳幼児も入れるコンサートであるため、すべての来場者に理解いただくことが課題。 ②事業継続 ③認知度が低いため、周知の工夫が必要。評価を得られる発表の場の設定が課題。 ④教室の安全面から応募人数が伸び悩んでいることから募集方法や教室に対する工夫が必要。 ⑤⑥事業継続	2
③学びの要求の充足	(2)③	32	総合型地域スポーツクラブ支援事業	誰もが身近な場所で生涯にわたってスポーツに親しめる場の充実を図る。	スポーツ課	開催実績	【令和4年度の目標値】 ・継続した学区スポーツ行事の開催及び活性化が図れるよう支援を行っていく。	各学区毎で感染症対策を行いながら、各種スポーツ大会やウォーキング大会などが開催された。学区運動会については、すべて中止となったが、各学区で代替事業として規模を縮小したニューススポーツ体験会などを開催した学区もあった。	【事業概要】 ・本市の総合型地域スポーツクラブは市内11学区のスポーツ振興団体で構成されているため、学区スポーツ振興団体の取り組みを中心とした総合型地域スポーツクラブの側面的支援を図る。 【成果】 ・誰もが参加できるニューススポーツの情報提供などを行った。 【課題】 ・若い世代の参加が減少している。	4
③学びの要求の充足	(2)③	33	スポーツ教室	自己の能力や体力に応じて、手軽にスポーツを楽しみ、継続的にスポーツ活動を行うきっかけとなるような教室を開催する。	スポーツ課	①参加者 ②教室数	・多種多様な市民ニーズに対応すべく、15講座を開講していく。 【令和4年度の目標値】 ①参加者のべ3,000人 ②15講座の開講	①参加者のべ1,692人 ②16講座の開講	【事業概要】 ・スポーツ教室を開講し、市民へスポーツ機会を提供する。また、より多くの方に参加してもらえるようニーズに応じた内容に改善を図る。 【成果】 ・規模を縮小するなど、感染症対策を徹底することで、スポーツ教室を概ね計画通り開催することができたが、スポーツ離れが進み、参加者数は低調であった。 【課題】 ・競技によっては定員を超える申込があるが、低調な競技もあるため、今後の講座の種目や参加対象の設定など工夫が必要である。また、コロナ禍で離れてしまった参加者を呼び戻す方策を検討する必要がある。	3

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	③学びの要求の充足	(2)③	34	読書活動推進事業(No.1再掲)	社会情勢に即した新鮮な情報や魅力ある資料の収集提供を行い、市民の生涯にわたる豊かな学びを支える。	図書館	①市民一人当たりの資料費 ②市民一人当たりの貸出冊数 ③月例コーナーからの貸出冊数	資料費の確保、蔵書の充実を図り、貸出につながる工夫を行う。 【令和4年度の目標値】 指標②③の前年度比100%以上	①市民一人当たりの資料費：311円(R4年度：295円) ②市民一人当たりの貸出冊数：7.1冊(R4年度：7.4冊) ③月例コーナーからの貸出冊数(R4年度：58,079冊)	【事業概要】 ・近江八幡館、安土館の利用状況や特色を考慮した選書を行い、効果的な資料の購入を行う。また、コーナー展示により、新刊ではない資料を魅力的に見せることで貸出冊数の増加を図り、図書館利用の活性化を図る。 ・移動図書館車や市内コミュニティセンター等への配送サービス、沖島配本等を行い全域サービスの充実に努める。 【成果】 ・ステーション増設による移動図書館での貸出は増加したが、LEDIによる近江八幡館の長期休館等の影響もあり、全体の貸出は減少した。 ・市民一人当たりの資料費は311円(R4年度：295円) ・市民一人当たりの貸出冊数は7.1冊(R4年度：7.4冊) ・月例コーナーからの貸出冊数は44,662冊(R4年度：58,079冊) ・移動図書館車の貸出冊数は15,984冊(R4年度：12,169冊) ・配送サービスでの貸出冊数は7,500冊。(R4年度：7,055冊) ・沖島配本での貸出冊数は434冊(R4年度：533冊)	3
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	(3)①	35	防災出前講座	学区・自治会や団体等の求めに応じて、防災に関する講座を実施し、市民の防災意識の醸成に努めるとともに、災害に強いまちづくり・即応できる人づくりを推進する。	危機管理課	・講座実施回数 ・参加者数	・実施回数 5回 ・総参加者数 100名	・実施回数 5回 ・総参加者数 84名	【概要】 自治会や各種団体、学校からの依頼により防災意識の醸成、災害に強いまちづくり・即応できる人づくりを推進した。 【成果】 これまで男性のイメージが強かった防災だが、女性で構成される団体や学校でも出前講座を4回開催し、女性や子どもの防災意識向上が見受けられた。 今後もさらに防災には女性や子どもなど様々な視点が必要であることを啓発し、世代や性別を問わず、様々な方々に講座を受けていただく工夫が必要であると考ええる。 【課題】 開催の予定があったものの、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となった講座もあり、参加者数については目標未達となった。	2
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	(3)①	36	人権教育啓発講師団養成事業	人権文化の根付いた差別のない明るく住みよいまちづくりを目指し、あらゆる人権問題をテーマに広く市民に呼びかけ学習の機会とする。	人権・市民生活課	①人権教育啓発講師団登録人数(団体)	講師団の充実のため、人材の発掘や養成に努める。 【令和4年度の目標値】 ①人権教育啓発講師団名簿登録者の増加 5人(団体)の登録増	①47人(団体)	【概要】 市内自治会や団体などが実施する研修会において、主催者の要請に応じて、支援や助言ができる人権教育啓発講師を構成し、また、講師・指導者の研修を実施する。 【成果】 令和3年度は35人(団体)だったので、12増となった。 【課題】 講師のさらなる発掘に努める必要がある。	1
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	(3)①	37	子育てサポーター養成講座の実施	子育てに関する知識や子育て支援活動に必要な知識及び技術の講習・研修を行い、本市の子育て支援の一翼を担う子育てボランティア「子育てサポーター」を養成する。	子育て支援課	①研修会及び講座の回数 ②参加人数	・引き続き子育て支援者の養成と資質向上に努める。 【令和4年度の目標値】 ・研修会開催 ＜子育てサポーター養成講座＞ ・今年度も引き続き、外部委託として実施。 ＜子育て支援担当者会議＞ ・研修会開催	＜子育てサポーター応援講座＞ 外部委託で開催 ①年 4回 ②延べ参加人数 27人 ＜子育て支援担当者会議＞ 研修会としては、開催なし。 ＜子育て支援担当者会議＞ 担当者会議 年4回開催	【概要】【成果】 ＜子育てサポーター応援講座＞ 内容・マルチトメント、SNS発信、救命救急講習、写真の撮り方 参加者には満足度100%で好評 シニア世代の退職年齢引き上げや主婦層の就労増加など現在の社会的背景から事業目的の「子育てボランティア育成、子育てサポーター養成」にはそぐわない状況もある。今後は、子育て世代の学びの場へと移行することも検討が必要と考ええる。 ＜子育て担当者会議＞ 各学区の子育て支援事業担当者の情報交換をすることが、その後の子育て支援活動に生かされている。 【成果】	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	(3)①	38	住みよいまちづくり推進講座 (No.27再掲)	男女共同参画や子どもの人権、精神障がい、発達障がい、高齢者問題等のあらゆる人権問題への正しい理解と自覚を培い、地域における人権学習会や職場等での実践に結びつけて活動していくことができる指導者の育成を図る。	生涯学習課 (各学区まちづくり協議会に委託)	講座実施回数	・コロナ禍での開催となることから、感染拡大防止対策を徹底し、全ての学区での開催を依頼する。 ・アンケートの集計結果を活用する。 【令和4年度の目標値】 ・各学区年3回以上の実施継続を依頼する。	実施回数10学区27回 (参加者数のべ999名)	【事業概要】 ・男女共同参画をはじめさまざまな人権問題について6月～7月にかけて3回以上の講座の実施を依頼。開催に係る経費は地域まちづくり支援交付金から支出 【成果】 ・コロナ感染が心配される地域では中止対応された会場もあったが、今年度もコロナの感染防止対策を講じ、全ての学区での開催できた。昨年以上の参加者を集める学区もあり、充実した講座を実施された。学びの機会があることを大変喜ばれていた。 【課題】 ・実施期間の限定せず年間を通じてなど、検討が必要。	2
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	②学びを生かすつなぐ活動の支援	(3)②	39	近江八幡市美術展覧会	市民に積極的な創作活動発表の場を提供し、また、身近で作品を鑑賞し美術に親しむ機会をつくることで、市の美術文化の向上を図る。	文化振興課	①出品数 ②来場者数	【令和4年度の目標値】 ①出品数 270点 ②来場者数 1,000人	①出品数 236点 ②来場者数 940人	【事業概要】 平面・立体・工芸・書・写真の5部門を公募し入選作品の展示を文化会館で行う展示会。入選作品のうち、特に優れた作品を特選(特別賞を含む)、準特選、奨励賞に、また、審査員による作品の講評会を行う。 【課題】 年々出品者数や来場者数が減少傾向にあり、市民の文化芸術に対する意識・関心が低下していくことが懸念される。文化芸術を誰もが平等に楽しむことができるものであることを広く周知するとともに、芸術に関心を持ってもらう新しい取り組みが必要。	3
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	②学びを生かすつなぐ活動の支援	(3)②	40	男女共同参画市民のつどい	「女性だから」、「男性だから」という性別の枠に縛られることなく、個人としての生き方を大切にしながら、共に協力して築き心豊かな社会づくりを進めるため開催する。	人権・市民生活課	①参加者アンケートの満足度	オンライン活用等、多様な開催方法等を検討する。 【令和4年度の目標値】 ①参加者アンケートの結果、9割以上が満足を得られるよう企画する。	①アンケート結果では「よかった」「まあよかった」が回答の9割を占めた。	【概要】 「赤ちゃんとママの防災講座」主宰者である上沢聡子さんを講師として招き、「地域(みんな)で考える ママ防災士の赤ちゃんを守る防災講座」と題して講演会を開催した。 【成果】 定員250名に対し、当日参加者数は77名であった。アンケートはうち29名より提出があり、肯定的な意見が多かった。 【課題】 参加者が少なく、また年齢層に偏りがあるため、開催形式の検討やさらなる広報に取り組み必要がある。	2
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	②学びを生かすつなぐ活動の支援	(3)②	41	親育ち・子育て応援ひろば事業(カンガルー広場)	親子が自ら企画し、主体的に活動することにより、「遊びの重要性に親が気づく」「親同士が仲間づくりをする」「親自身が自ら育つ」ことを目指す。	子育て支援課	①活動回数 ②参加者数	【令和4年度の目標値】 ①活動回数 各センター20回 ②参加者数 八幡子どもセンター20組 八幡西子どもセンター8組	①活動回数 八幡子どもセンター 20回 八幡西子どもセンター 20回 ②参加者数 八幡子どもセンター 8組 延べ参加組数 133組 八幡西子どもセンター 6組 延べ参加組数 95組	【事業概要】【成果】 カンガルー広場の事業内容に興味のある保護者や賛同している保護者が集い、年20回開催する。内容は、自分達でアイデアを出し合い、体験したいこと、学びたいこと等を中心に行う。回を重ねるごとに、保護者同士の繋がりが強くなっている。 保護者自身が仲間と共に子どもの気持ちを理解し、子どもとのかかわり方を学び、親としての自信を身に付けていく様子が伺える。 カンガルー広場の活動を見てきた自由来館の保護者から、「参加してみたい」との声もあり、好評である。 【課題】 新型コロナウイルス感染症対策で利用者の人数制限を行っているため、参加組数は目標値を下回った。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	②学びを生かすつなぐ活動の支援	(3)②	42	地域課題等学習講座 (No.13再掲)	地域の市民一人ひとりが、精神障がいや発達障がい、高齢者問題、防災、新しい人権、家庭教育等の現代的課題を幅広く学び、学びを実践としてまちづくりに生かして地域課題の解決を図る。障がい福祉課、人権・市民生活課、子育て支援課、福祉政策課等各課題と関連のある各所属と連携し、効果的な事業の推進を図る。	生涯学習課 (中央公民館)	講座実施回数	・今後も各学区まちづくり協議会への事業周知を継続する。 ・地域課題に対応できる講師の情報を集める。 【令和4年度の目標値】 ・全11学区11講座の実施をめざしたところではあるが、コロナ禍のため今年度は4学区6講座の実施をめざす。	実施回数2学区3講座実施	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会がそれぞれの地域にある課題について学習する講座を主体的に企画して実施する。 ・生涯学習課は、講師の紹介や予算執行を行う。 【成果】 ・地域のニーズに合わせた講座内容を扱うことができた。 ・様々な分野の講座をひらくことができ、市民の学びの機会を保障することができた。 【課題】 ・すべての学区で活用いただけるように各まちづくり協議会や他の所属との連携を図る必要がある。	2
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	③人の交流によるまちの活性化	(3)③	43	各種スポーツ大会	多忙な日常生活のなかで、運動不足、ストレスの解消と学区民の交流・親睦を目的にスポーツ事業を実施する。	まちづくり協働課 (まちづくり協議会)	(各まちづくり協議会で独自の評価を設定し実施)	【令和4年度の目標値】 ・今後も広く住民周知や新たな取組等も検討するなど、常に検証・評価や見直しを行いながら、住民理解・意識醸成が高まるような事業を検討・実施していく。 ・ウイズコロナ・アフターコロナを見据え、持続可能な手法を用いたイベント等の開催支援、または代替事業の提案を行う。	・各学区まちづくり協議会が「健康・福祉のまちづくり事業(体育振興事業)」として、各スポーツイベント等を実施する予定だったが、大きなイベントやマスク着用が難しいスポーツ等は全面的に中止、または規模を縮小しての開催となった。6学区が中止、5学区が規模を縮小しての開催となった。	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会事業で「健康・福祉のまちづくり事業(体育振興事業)」としてスポーツイベント等を実施したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年に引き続き、事業の中止や規模縮小が行われた。 【成果】 ・学区や地域が持つ資源(モノ・人材)を発掘・活用し、学区民の健康保持とスポーツを通じての交流・親睦が図れた。 ・大きなイベント(体育祭など)は中止となったが、その代替事業としてロケイニングやウォーキング、スタンプラリーなど、屋外での事業を中心に学区民が楽しめる事業を複数のまち協で実施した。 【課題】 ・コロナ禍による事業の見直しにより、自治会対抗ではなく自由参加形式によるニュースポーツなどの学区民の関心を引く取り組みについて、各学区や地域が工夫を行い、スポーツ啓蒙を行っている。 ・事業の実施に向けて各団体への支援を行う必要がある。	4
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	③人の交流によるまちの活性化	(3)③	44	学区文化祭	学区民の日ごろの活動(サークル・学習活動)の成果の発表の場と交流・親睦を目的に開催する。	まちづくり協働課 (まちづくり協議会)	(各まちづくり協議会で独自の評価を設定し実施)	【令和4年度の目標値】 ・今後も広く住民周知や新たな取組等も検討するなど、常に検証・評価や見直しを行いながら、住民理解・意識醸成が高まるような事業を検討・実施していく。 ・ウイズコロナ・アフターコロナを見据え、持続可能な手法を用いた文化祭・文化のつどいの開催支援を行う。	・各学区での文化活動のトップ事業として、学区や地域の特性に応じた企画を実施する予定だったが、不特定多数が集まること、飲食を伴う事業であることなどから、2学区が中止、9学区が規模を縮小しての開催となった。	【事業概要】 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事業の中止や規模縮小が行われた。 【成果】 ・9学区において作品の展示や、録音した音楽(大正琴など)等、コロナによる感染防止に配慮した発表が行われた。 ・文化祭や文化のつどいの代替事業として、サプライズ花火やイルミネーション、菊花展などが実施された。 ・密を避けるために展示期間を延長する等の工夫をしながら事業実施に取り組もうとする姿勢がみられた。 【課題】 ・各学区や地域で個性・独自性があるものの、事業のマンネリ化や参加者の固定化、偏り等があり、検証や見直しも必要。 ・サークルや学習活動の発表の場、交流・親睦の場としての役割を果たしながら、今後のウイズコロナの状況下でも可能な事業の実施が引き続き必要。	3

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	③人の交流によるまちの活性化	(3)③	45	リサイクル資料を活用した市民提案事業	市民参画の場を提供するとともに、除籍本を有効活用し、広く市民に還元する取組を実施する。	図書館	①リサイクル実施回数	除籍本のリサイクル販売を定期的に行い、その収益をもとに、講演会等、市民への還元事業を実施する。 【令和4年度の目標値】 実施回数(月2回以上)	①実施回数:33回	【事業概要】 ・近江八幡市立図書館におけるリサイクル資料を活用した市民提案事業により、事業実施団体「ゆっくぶっく」に図書館の除籍本を譲渡し、リサイクル販売の売り上げを市民に還元する。 【成果】 ・近江八幡図書館において除籍本のリサイクル販売を月2回行うとともに、安土図書館における無人古本市や移動図書館のイベントに合わせた出張販売等、計33回実施し、合計3,940冊、136,540円の売り上げがあった。この収益をもとに、朗読劇の開催やスポンサー雑誌の購入、図書館環境美化等を行っていただいた。 【課題】 ・より多くの市民が参加できる有益な還元事業を企画実施する。	1
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	③人の交流によるまちの活性化	(3)③	46	スポーツ大会	健康の保持増進を図るとともに、参加者同士の交流を深める。	スポーツ課	参加人数	・アンケート結果や関係者の意見を参考にし、コースの変更や運営方法について協議し、より魅力的な大会にしていきたい。 【令和3年度の目標値】 ・マラソン大会1,800人 ・駅伝競走大会80チーム	・マラソン大会805人 ・駅伝競走大会48チーム	【事業概要】 ・市スポーツ協会や学区スポーツ振興団体、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、各種競技団体と協力し、水郷の里マラソン大会や駅伝競走大会を開催する。 【成果】 ・マラソン大会については、参加対象を県内に限定するなど規模を縮小したが、3年振りに開催できた。大幅に変更した新コースが好評であった。 ・駅伝大会も、3年ぶりであったことから参加者数は低調であったが、無事に開催できた。 【課題】 ・新規の参加者を増やすとともに、コロナ禍で離れてしまった参加者を呼び戻す方を検討する必要がある。	3
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	(4)①	47	文化芸術振興基本計画推進業務	計画の推進のため、市民意識の醸成とともに協働と参画のもと、活動の主体がそれぞれの役割と責任に応じて取り組める推進体制を整備する。	文化振興課	文化振興基本計画にかかる実施事業の把握	【令和4年度の目標値】 令和3年度実施分の進捗状況調査の実施。	庁内の文化関連事業を体系毎に整理し、庁内外の機関で事業の点検評価を行った。	【事業概要】 令和3年度実施分の文化関連事業について事業調査を行い、庁内組織委員会及び文化振興審議会で点検評価を行った。また、調査や評価の結果を1冊の冊子にまとめ、市民に公表した。 【成果】 各文化事業について細かく知ることができたとともに、体系的にまとめたことで、現在の市の文化振興施策の強弱が顕在化し、文化振興審議会を通して今後の取組方針が見出せた。 【課題】 成果が定量化できない事業が多いため、成果指標の設定が難しい。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	(4)①	48	本のまち！動く図書館事業	図書館から遠く来館が困難な市民に対し、広く読書の機会を保障する。	図書館	①貸出冊数 ②利用人数	定期巡回における利用を定着させるとともに、イベント等に合わせた特別巡回を実施し、市民が本に触れる機会を増やす。 また、令和5年度運行開始に向けて、ミニ移動図書館の整備を行う。 【令和4年度の目標値】 指標①②の前年度比100%以上	①貸出冊数:15,984冊(R3年度:12,169冊) ②利用人数:5,905人(R3年度:4,993人)	【事業概要】 ・図書館から遠く、利用が困難な市民に移動図書館車で本を届けることにより、読書の機会を保障し、全域サービスの充実を図る。 【成果】 ・定期的に巡回しているステーションだけでなく、沙沙貴神社での「森のえほん会」、西の湖を感じる展覧会、はちはびひろば主催「絵本の世界にはいっちゃんお！」等へも参加し、市民に広く周知した。また、近江八幡館がLED工事のため休館中の土日に玄関前に移動図書館車を設置し、貸出を行う等、新たな移動図書館車の利用促進に努めた。 【課題】 ・コミュニティセンターの利用者が巡回時間的に固定してきたので、さらなる利用者の拡大が必要である。 ・イベントや土日等の稼働も検討したいが、そのためには安定した職員の配置が必要である。 ・はちっこぶっく号ミニは就学前施設の巡回を段階的に増やしていきたいが、おはなし会ができる職員の配置が必要である。	1

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	(4)①	49	学校体育施設開放事業	身近で気軽なスポーツ活動場所の確保という市民のニーズに応えるべく、市立学校体育施設を開放する。	スポーツ課	利用者数	・地域スポーツの拠点として、身近で気軽に利用できる体育施設として、利便性が良いことから、持続可能な事業となるよう努めていく。 【令和4年度の目標値】 利用者のべ50,000人	利用者のべ51,270人	【事業概要】 ・市内市立小、中学校の学校体育施設を学校運営に支障の無い範囲において、市民に夜間開放を行う。 【成果】 ・各学区の学校体育施設を開放することにより、身近かつ利便性のある体育施設として多くの方々の利用を得られた。 【課題】 ・管理者が体育館等に常駐していないため、防犯・防災等が各開放運営委員会に委ねられている状況となっている。	4
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	(4)①	50	生涯学習推進実施計画進捗管理	「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」掲げる理念や実施目標、実施項目を具体的施策として推進していく。	生涯学習課	①社会教育委員・公民館運営審議会委員会議での報告	【令和4年度の目標値】 ①社会教育委員・公民館運営審議会委員会議での報告	①令和4年7月28日 令和4年11月22日 令和4年12月23日 令和5年2月17日 令和5年3月17日	【事業概要】 ・「実施計画」に掲げる実践項目別の関係所属の個別事業の進捗状況調査 ・「実施計画」の個別事業の成果と課題、目標達成状況の把握 ・進捗管理を通して生涯学習課と各所属が情報を共有することにより、連携を密にし、生涯学習・社会教育政策が効率的・体系的に推進されるよう支援 【成果】 ・各所属の生涯学習・社会教育推進事業の進捗状況を把握できた。 ・進捗管理を行うことにより、構想の目標達成状況を把握できた。 ・各課の意見の聴取し、「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」の策定業務を進めた。 【課題】 ・進捗管理業務において、新型コロナウイルス関係により例年と比較して事業が進まないことが多かったため、関係課とより目標について設定を再考していくこと必要である。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	51	子ども文化芸術賞	子どもたちの豊かな心と感性を育むうえで重要な文化芸術活動を推進するため、様々な文化芸術活動に励む子どもを応援し、文化芸術への意欲を高めることを目的に顕彰事業を行う。	文化振興課	①応募件数 ②受賞者数	【令和4年度の目標値】 ①8件 ②6件以上	①34件 ②34件	【事業概要】 令和4年10月11日から12月21日まで公募を行い、受賞者の表彰式を行った。 【成果】 各校や保護者から、小学生中学生合わせて32名ならびに2団体の推薦があり、特別賞に7名、芸術賞に個人25名、団体2団体の受賞が決定した。市HPやLINE、FBを通して受賞者や活動紹介を行い、3月19日に文化会館で表彰式を挙式。受賞者や関係者から「今後の励みとなる。」「受賞して嬉しい」等喜びの声をいただいた。市文化振興条例に基づく文化振興基本計画(基本目標IV-基本施策1-具体的取り組み⑥顕彰の実施)を遂行できた。 【課題】 ・各校からの申請格差がある。推薦水準が推薦者の判断に任せられ、はかりにくい。 ・他賞の受賞歴者・団体が推薦される傾向があり、日常的に積極的な文化活動を行う子どもたちや団体に対し、将来性を顕彰できる賞となるよう、当賞の成立理念や性質、賞そのものについてのあり方を検討していく必要がある。	1

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	52	地域子育て支援拠点事業	乳幼児親子が気軽に集える場を提供し、親子の交流や学びの講座、育児相談等を実施します。	子育て支援課	①活動回数 ②参加者数	【令和4年度の目標値】 ①活動回数 各センター 20回 ②参加者数 各センター 10組	<p><学びの講座> ①活動回数および参加人数 八幡子どもセンター 歯科相談 2回 20組 応急手当 1回 11組 離乳食講座 6回 12組 八幡西子どもセンター 栄養相談 3回 8組 歯科相談 2回 12組 子育て講座 2回 13組 応急手当 1回 4組 八幡東子どもセンター 歯科相談 1回 6組 食育相談 2回 8組 応急手当 1回 5組</p> <p><育児相談> 八幡西子どもセンター7回13組 八幡東子どもセンター12回45組 <子育て座談会> 八幡西子どもセンター6回19組</p>	<p>学びの講座では、子育ての知識や子育てに役立つ情報を専門家から学ぶ機会となっている。栄養相談(離乳食講座)、歯科指導、子育て講座、応急手当など、それぞれの専門の講師が分かりやすく丁寧に指導をしてくださり、保護者の満足度・関心度は高い。新型コロナウイルス感染症対応で、内容の工夫をしながら開催しているが、日々の子育ての中で知りたいと思っていることを直接聞けるよい機会となっている。</p> <p>育児相談については、八幡子どもセンターでは「相談日」として設けてはいないが、センター利用の保護者との日常会話の中で質問や悩みにこたえるようにしている。子育て座談会では同じ悩みを持つ保護者同士が語り合うことで、子育て不安の解消や安心感につながっている。</p>	3
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	53	おはなしメリーゴーランド	おはなし会を通して、乳幼児期から読書習慣を身につけ、親子のコミュニケーションを深められるように支援する。	図書館	①実施回数 ②参加者数 ③赤ちゃん絵本の貸出冊数 ④継続した参加者(4回以上参加)	<p>新型コロナウイルスの感染状況をみて、安心安全な実施方法を講じたうえで、親子で一緒に絵本の時間を楽しめるよう実施する。</p> <p>【令和4年度の目標値】 指標②③④の前年度比100%以上</p>	<p>①実施回数:近江八幡館15回、安土館8回 計23回(R3年度:計27回) ②参加者数:近江八幡館172人、安土館55人 計227人(R3年度:計93人) ③赤ちゃん絵本の貸出冊数:31,905冊(R3年度:35,100冊) ④継続した参加者(4回以上参加):9人(R3年度:1人)</p>	<p>【事業概要】 ・おはなし会を通して、親子で絵本の楽しさを知ってもらい乳幼児期から読書習慣を身に付けてもらう。また参加者同士のコミュニケーションの充実を図る。 ・近江八幡館は、4～6月は1回につき2組までの事前予約制とし、月2回実施した。7月からは人数制限を設けない当日参加制とし、月1回実施した。安土館はコロナ禍により中止していた「絵本の時間」を「おはなしメリーゴーランド」に統一し、8月から月1回実施した。</p> <p>【成果】 ・安土館のおはなし会、当日参加制の再開によって、参加人数が昨年度(97人)の約2倍以上増加した。 ・外部施設でのチラシ設置、ブックスタートでの周知を行い、0歳児の初参加者を多く呼び込んだ。また、コロナ禍で参加習慣の途切れた親子が復帰傾向にある。</p> <p>【課題】 ・赤ちゃん絵本の貸出冊数が減少した。(蔵書点検に引き続き、LED工事で、約3週間近江八幡館が休館したことも要因として考えられる。) ・おはなし会だけでなく、気軽に親同士の交流の場として、活用してもらえ工夫が必要である。</p>	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	54	ブックスタート事業	読書を通して、親子のコミュニケーションの大切さや読書の意義を伝える。	図書館	①実施回数 ②赤ちゃん絵本の貸出冊数(両館合計) ③4ヶ月健診児登録率	新型コロナの感染状況をみて、安心安全な実施方法を講じたうえで、実施する。 【令和4年度の目標値】 ・指標②③の前年度比100%以上 ・コロナ禍の中でも、メッセージをしっかり届けられるような取組を実施する。	①実施回数:24回(R3年度:24回) ②赤ちゃん絵本の貸出冊数(両館合計):31,905冊(R3年度:35,100冊) ③4ヶ月健診児登録率71%(R3年度:コロナにより実施せず)	【事業概要】 ・保健センターの4か月健診時に、親子に絵本を1冊を読み、読み聞かせや優しい言葉がけの大切さを保護者に伝え、ファーストブックを手渡す。乳幼児期から絵本に親しむことで、読書習慣を身につけてもらう。またその場で図書館の利用カードを希望者に作成し、図書館への利用を促す。 【成果】 ・利用カード登録率はコロナ禍以前の最終実施年(H31/R1)の67%から増加した。 ・「ブックスタート時の案内を聞いて来た」と、おはなしメリーゴーランドに参加される方が見受けられた。 【課題】 ・赤ちゃん絵本の貸出冊数が減少した。(蔵書点検に引き続き、LED工事で、約3週間近江八幡館が休館したことも要因として考えられる。) ・利用カードをその場で作成し、図書館の利用に繋げたい。 ・保護者が受け取ったファーストブックで、どの程度よみかきを実践してもらっているのか、今後調べる必要がある。 【成果】 ・コロナ禍で休止していた利用カードの作成を再開したことにより、登録者が増え、乳幼児の貸出冊数が増加した。	3
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	55	就学前わくわく絵本体験事業	乳幼児から読書習慣を身につけるため、就学前施設に配本等を行い、家庭での読み聞かせの普及を図る。	図書館	①0～6歳児一人当たりの貸出冊数	【令和4年度目標値】 指標①の前年度比100%以上	①0～6歳児一人当たりの貸出冊数:11.4冊(R3年度:13.0冊)	【事業概要】 ・乳幼児から読書習慣を身につけてもらい、公立園、私立園問わず、市内の全ての園児が等しく同じ絵本体験ができるよう努める。 【成果】 ・令和3年度に引き続き、市内の希望する園へ図書館の絵本で複本が多くあるものを譲渡し、絵本環境の充実を図った。 令和4年度22園 冊譲渡(令和3年度22園893冊譲渡) ・軽自動車改造型移動図書館車を整備した。 【課題】 ・赤ちゃんの絵本の貸出冊数が減少した。(蔵書点検に引き続き、LED工事で、約3週間近江八幡館が休館したことも要因として考えられる。) ・子育て世代の保護者が、ゆっくり子どもと一緒に読書を楽しめるような環境づくりが必要である。 ・子ども達はひとりでは図書館に行けないため、市内の子ども達すべてに等しく本の楽しさが享受できるよう移動図書館車を充実させていく必要がある。また貸出と同時に絵本の読み聞かせ等も実施していく必要がある。	3
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	56	家庭教育支援基盤形成事業	本市の家庭における教育力の向上を目指し、地域住民やPTAの参画による取組を進める。学校・家庭・地域の連携のもと、地域人材を有機的に結びつけ子どもの健全な育成と安心安全な居場所の確保に支援を行う。	生涯学習課	各校での子育て講演会、サロンの実施回数	・各小学校単元に配置 【令和4年度の目標値】 市の子育てサロン実施回数2回 訪問型支援実施校6校	・各小学校単元に配置 【令和4年度の目標値】 市の子育てサロン実施回数3回 訪問型支援実施校6校	【事業概要】 少子化や核家族化に伴い、家族での子育てへの不安や孤立感を持つ親の増加を受け、家庭での教育力向上と、家庭教育への支援体制の充実を図るため、それらの環境整備の推進する。 【成果】 ・それぞれの小学校区の実態に応じた家庭教育支援の取組みを展開している。 ・サロンの参加方法をオンライン可能にしたことで、幅広く保護者に情報できるようになった。 【課題】 各校でチーム会議を行い、自ら困り感を発信できない保護者にも支援ができるよう、支援の方法を多方面から検討する必要がある。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	57	早寝・早起き・あさ(あいさつ)、し(食事)、ど(読書)、う(運動)推進事業	基本的生活習慣の確立に向けた教育力の向上をはかる。	関係課 (学校教育課、学校給食センター、幼児課、図書館、生涯学習課)	①各校からの早寝・早起き・あさ・し・ど・うに関する学校だより等による啓発実施回数 ②食育・図書館教育に関する会議の実施回数、小学校の健やかタイムの実施校数 ③3年に1度の生活習慣アンケートの中で、早寝・早起き・あさ・し・ど・う運動を知っている児童生徒の割合	・食育、読書、運動について、取組の浸透を図るため担当者会を行う。また、子どもや保護者への啓発をすすめるとともに啓発旗等の活用等により地域へ積極的に発信していく。 【令和4年度目標値】 ・各校からの早寝・早起き・あさ・し・ど・う運動に関する学校だより等による啓発実施回数(学期に1回) ・食育担当者会 年2回 ・図書館教育担当者会 年2回 ・小学校の健やかタイムプラン(10分間運動・体育の宿題・特別活動・環境整備・チャレンジランキングなど)の実践校数 12校	・食育担当者会は年2回開催、図書館教育担当者会は新型コロナウイルス感染予防のため年1回の開催となったが、食育、読書、運動について、各校の様子を話し合い、さらなる取組の浸透を図った。 ・早寝・早起き・あさ・し・ど・う運動に関する各校からの啓発を年に3回以上実施 ・小学生の体力向上策として各校がすこやかタイム(10分間運動)を実施(12校)	【事業概要】 早寝・早起き・あいさつ、食事、読書、運動の活動を学校・地域・家庭が連携して取り組み、基本的生活習慣の定着を目指す。 【成果】 食育担当者会や図書館教育担当者会を年1～2回開催し、「食に関する指導全体計画」や「図書館教育全体計画」に基づいた各校での取組の推進と、取組を交流し学び合う機会となった。 【課題】 どのような啓発活動が、生活の見直し・向上につながるのか検証する。小学生の運動能力の向上と、小・中学生の読書活動の充実に向けて、有効な取組を検討する必要がある。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	58	お出かけ演奏会(No.7再掲)	市内各校・園所にプロの音楽家が出向き、安土桃山時代に伝わった音楽などを同時代の楽器と声楽で生演奏することにより、子どもに豊かな芸術体験と、地域の歴史文化を学ぶ機会を提供する。	文化振興課	実施小学校公演数	【令和4年度の目標値】 ①10公演 ②「ふつう」以上＝勉強になった、やや勉強となったの回答率6割	①13校園所で17公演実施 ②やや勉強となった以上95%	【事業概要】 西洋音楽史を通じたふるさと学習。16世紀に安土桃山時代に安土に渡来した楽器や音楽の歴史について、プロの演奏者による古楽器(声楽・フルート・オルガンのトリオ編成)演奏を通して、児童がふるさと学習できたり幼少期より本物の音楽に触れたりする機会を創出。地域や音楽への興味喚起がねらい。 【成果】 市内小学校及び保育所や幼稚園、こども園からの希望日時に合わせて、13校園所17公演を実施。今年度、はじめて公立園所すべてで、公演実施することができた。また、今年度の小学校対象公演では、文化財担当者も随行し歴史学習の充実を図った効果で、「勉強になった」の回答率において過去最高の結果を得ることができた。市文化振興条例に基づく文化振興基本計画(基本目標IV-基本施策1-具体的取り組み④文化芸術に接する機会の拡充)を遂行できた。 【課題】 未就学児に対し、本物の音楽に触れる機会が増える一方で、学校行事等もあり、主対象と考える小学校(6年生)からの公演依頼が少ない。	1
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	59	キャリア教育推進事業(No.11再掲)	市内の子どもたちが、社会人、職業人として自立し、地域につながるキャリア教育・職業教育の充実と推進を図る。	学校教育課	中学生チャレンジウィークにおける体験活動の日数	・市内の中学校が教育委員会と情報共有しながら職場体験の受け入れ先を開拓し、各校3日以上体験活動ができるように進める。 【令和4年度の目標値】 職場体験 3日間	・市内3中学校は3日間実施できた。1中学校は、コロナ禍のため2日間の実施となった。 ・職場体験学習を楽しみにしている子どもが多く、前向きに取り組んでいた。 ・保護者や事業所は職場体験を良い学習の場であると感じていた。	【事業概要】 子どもたちが実際に地域の事業所に向かい働くことを通して、働く人の思いに触れ、自分の生き方を考える機会とする。地域との連携を深め、地域で子どもを育てる気運を高める。 【成果】 あいさつや振る舞いなど基本的な事を身につけ、働くことの厳しさや喜び、労働に対しての正しい認識を持つことができた。また、マナーやルールの必要性を身をもって理解することができた。日常にはない貴重な体験を通じ、仕事に対する興味や関心も広がり、より一層、将来の自分像を描きやすくなった。今後の進路学習や人生設計にも生きる活動となった。 【課題】 子どもたちの変化を生かした、事前・事後学習の充実、家庭・地域・学校との連携がより必要である。コロナ禍での実施により、事業所の確保が困難であった。さらなる体験事業所の確保が必要である。	2

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和4年度の対応方針 【目標値】	令和4年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	60	学校支援地域本部事業 (No.16再掲)	地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制を確立する。また、地域全体で子どもを育てるための地域住民の意識向上と地域教育力を高める。	生涯学習課	支援ボランティア参加者数	・市内全ての公立こども園、幼稚園、小中学校に地域学校協働本部を設置し、地域学校協働活動推進員を配置することができたので、今後はコミュニティスクールとの連携を図る。 【令和3年度の目標値】 ・支援ボランティア参加者数1,920名	支援ボランティア数のべ約5,000名	【事業概要】 ・5幼稚園、2子ども園、12小学校、4中学校(合計23校)へと市内全ての公立校園で事業実施している。 ・地域学校協働活動推進員の活動の充実や不安の解消を図るため意見交流会や情報交換会を行い、よりよい事業の進め方を追求している。 【成果】 ・地域学校協働活動推進員の配置により教職員と地域住民とのつながりが生まれ、学校と家庭、地域との連携の意識が高まっている。 ・本事業を長年継続していることで、地域での認知度が高まりボランティアに参加する人が増えている。 【課題】 ・事業の開始から長い時間が経過しているため、地域協働活動推進員や学校ボランティアの高齢化が進んでいる。次の世代の人材の発掘をしながら、引継ぎを着実に、事業が後退しないようにしなければならない。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	61	人生伝承塾 (No.17再掲)	モノ作りの伝統や日本がこれまで培ってきた技術や精神などを持つ地域人材や企業、団体等が出前授業や見学受入等を通じて生き方・知恵や技能を児童・生徒に伝える。	生涯学習課	人生伝承塾の講師登録者数	・様々な講師の方を迎えての学習によって子ども達が学ぶことの楽しさを実感できるような授業づくりの支援を図る。 【令和3年度の目標値】 ・「人生伝承塾」新規登録者数：2名	「人生伝承塾」新規登録者数：4名	【事業概要】・伝統文化やキャリア教育等の11の視点で講師リストを作成し、子ども達が興味関心をもてる学びの機会を設ける。 【成果】・登録いただいた講師の方々が学校や地域に向いて、各講座にて子どもの学びの場を設けることができた。 【課題】・人生伝承塾ファイルが各学校機関に配布されているが、活用頻度、認知度が低い。Googleドライブ内LANで閲覧可能にすることで、より閲覧しやすく活用しやすい環境づくりに取り組む。コミセンには年度毎に一覧表を届ける。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	62	学校支援メニューフェア (No.18再掲)	地域の人材・団体や企業の持つ出前授業や見学受入等の学校支援プログラムを学校に直接・間接的につなぐことで、技術や技能、精神を次世代に伝承するとともに社会全体で学校を支援する気運を醸成する。	生涯学習課	学校支援メニューフェア参加者数	・令和4年度以降の開催に向けて、開催形態や内容の見直しを行い、魅力ある催しとなるよう企画する。 【令和3年度の目標値】 コロナ禍により、開催中止	コロナ禍により、開催中止	【事業概要】 ・学校と企業・団体との支援を結びつける学校支援メニューフェアを夏休み期間を利用して開催する。 【成果】 ・コロナ禍により、開催中止 ・企画の具体的な見直しを行うことができなかった。 【課題】 ・支援プログラムを持つ企業・団体の、教職員へのより効果的な紹介方法がないか、検討の必要がある。	4